長崎「Born again」

西川　研
長崎県

その朝、
巨大な閃光が16万人超（長崎市 原爆死没者名簿登録者）の人生を奪い、
街は原子野と化し、すべてを灰に、地獄を作った。
原爆資料館の入口につづくスロープの壁に、刻まれた年号が、
現在から約70年前の長崎へといざなう。
そこには人類が忘れてはならない歴史がある。
そして、今も、増え続ける核兵器の数が記されている。

長崎支部の西川 研（ケン）さんを訪ねました。
周囲のどなたからも、親しみをこめて愛称の「研さん」と呼ばれている方です。
以前は全通研の運営委員をされ、組織部でも活躍されていたベテランです。
現在、長崎市障害福祉センターで、手話通訳のお仕事をされています。
毎日のスケジュールノートは、真っ黒になるほどの予定が詰まり、
午前午後とも大忙し。

若い相談者は、一人で多くの悩みを抱えていた。
一つ一つの悩みをゆっくりと丁寧に聞き解き、
有明の海の様、静かに優しく包む「お父さんの顔」は、
頼りがいあふれる姿です。
時に、「安堵の笑顔」で、その場が和む。
研さんの人柄のなせる業。

西川ファミリー＆ゆうこちゃん
（亡くなった長女 共（とも）さんの親友、今は、娘の様です）

「飲まんば、歌えんもんね！」から始まる

夜のケン（研）ワールドはあらゆる人との
コミュニケーションの場です。
ホームグラウンドの「フォーク酒場1970」は、
人生の、楽しいことも、悲しいことも、
こころをつなぎ逢う広場である。

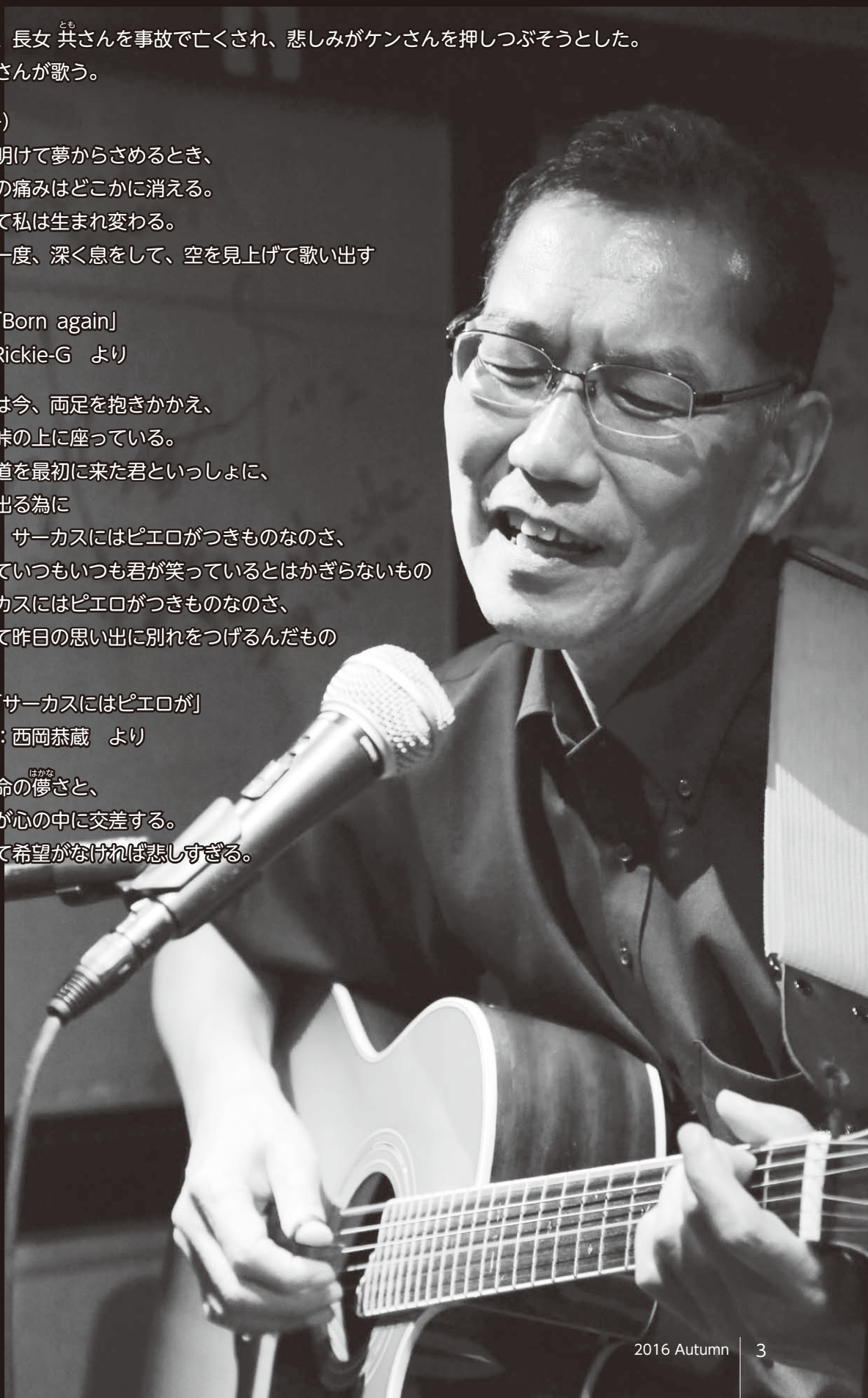
息子さんの大（だい）さんは
「とうさんの歌う歌は、優しい歌とぉー」（長崎言葉風に…）という。

愛娘、長女 共(とも)さんを事故で亡くされ、悲しみがケンさんを押しつぶそうとした。
ケンさんが歌う。

♪(略)
夜が明けて夢からさめるとき、
昨日の痛みはどこかに消える。
そして私は生まれ変わる。
もう一度、深く息をして、空を見上げて歌い出す
(略)
♪ 「Born again」
歌：Rickie-G　より

♪僕は今、両足を抱きかかえ、
この峠の上に座っている。
この道を最初に来た君といっしょに、
旅に出る為に
あゝ、サーカスにはピエロがつきものなのさ、
だっていつもいつも君が笑っているとはかぎらないもの
サーカスにはピエロがつきものなのさ、
だって昨日の思い出に別れをつげるんだもの
(略)
♪ 「サーカスにはピエロが」
作詞：西岡恭蔵　より

人の命の儚(はかな)さと、
重さが心の中に交差する。
そして希望がなければ悲しすぎる。



ケンさんは、息子さんの大(だい)さんの作る歌には「仏や神様」が多いと言う。
研さんの魂=ソウルは、大さん達へとDNAが引き継がれている。

いつまでも、研さんは長崎の地で、人生を謳(うた)い上げている。今日も、長崎はBorn again !

原爆資料館にて
「長崎のろう学校は浦上天主堂近くにありました」

写真/文　松本 博

長崎支部学習会